

平成24年度 天王寺区運営方針（暫定版）

※この資料は、平成24年度の暫定予算の説明資料として作成したものであり、平成24年8月以降の本格予算において議論を行うべき事項については、今後検討を行う内容を記載しています。

参考資料

様式1

- 【予算額〇〇千円】(通年分)
 - ・継続事業かつ通年で事業実施する必要のある事業を事業費を精査し計上しているもの
- 【予算額〇〇千円】(4～7月)
 - ・安心安全の取組にかかる拡充事業、補助金交付事業について、暫定期間(4～7月)に要する額のみを計上しているもの
- 【予算額 ー 】
 - ・事務用品にかかる経費など一般管理経費により対応するもの及び他局予算により事業実施する事業

(区 長： 朝 川 晋)

区 の 目 標 (何をめざすのか)	区 の 使 命 (どのような役割を担うのか)
・誰もが安心して快適に暮らすことのできるまち ・歴史と文化を生かしたにぎわいと活力のあるまち ・区民がつながり合い、支えあい、助け合うまち	・「地域のまちづくり活動の拠点」として、地域課題の解決や地域の将来のまちづくりに向けた区民の取組を支援し、地域力を高めていくこと ・「市民と市政のパイプ役」として、市民の声を市政に反映させるとともに、市政に関する情報を積極的に発信すること ・「区民の身近な便利で親切的な窓口」として、区民の日常のくらしに関わる様々な行政サービスを公正かつ効率的に提供するとともに、事業所や局との連携・調整を通じて区民の生活を支援すること

1 重点的に取り組む主な経営課題(天王寺区)

・今、何が課題で、その解決によってどのような状態をめざすのか	・課題解決に向け、どういった施策をいかに展開するのか	・戦略の実現に向け、24年度において、主にどのような取組・事業を実施するのか
--------------------------------	----------------------------	--

経営課題	戦略	具体的取組	業績(アウトプット)目標	前年度までの実績
【1 災害に強く犯罪の少ない安全安心なまちづくり】 ・現在、上町断層帯地震が発生した場合、天王寺区は他区に比して被災率が高いと予測されている。 ・また近年、区内で多く建設される高層マンションにおいては、東南海地震の長周期地震動による被害が懸念される。 ・こうしたことから、地震による災害、さらに風水害が発生した際に被害を最小限にとどめることができるよう、区民が自主的・主体的に事前対策を講じるようにする。 【上町断層帯地震による天王寺区内の被害予測】 ・死者 573名 (人口千人当たり9.2人 24区中第2位) ・全半壊家屋 6,813棟 (建物数比66.31% 24区中第4位) ・想定避難者数(区全体) 10,928人 ・帰宅困難者数 39,300人(24区中5位) 【区民モニター調査結果】 ・災害時の持ち出し品等の用意率(平成23年度) 世帯数の45.2% ・家具の固定率(平成23年度) 世帯数の37.7% (参考)静岡県 2009年の調査によると、「一部でも家具を固定している」と答えた方は70%	【1－1 災害時における自助・共助の取組の促進】 ・自然災害(地震、津波、風水害)に関する区民の理解を深めるための区主催のフォーラム等の取組を進める。 ・災害の発生時に区民が自分自身と家族の命を自ら守ることが出来るように、事前対策としての「自助」の取組を促進する。 ・地域住民が実際の災害に的確に対応できるよう自主的・主体的に行う防災訓練を支援する。 ・災害時に地域の住民が支え合って要援護者を支援することができるよう顔の見える範囲で日常的な見守りの仕組みづくりを支援する。 《どのような成果(アウトカム)をめざすのか》 (自助の取組) ・災害時の持ち出し品等の用意率 平成28年度 世帯数の50% ・家具の固定率 平成28年度 世帯数の50% (共助の取組) ・収容避難所の場所を知っている区民の割合 平成28年度 70% ・振興町会単位での災害時の要援護者の避難支援プランの作成数の増 (地域住民の自主的な協力が必要であり、目標数値化は困難なため)	【1－1－1 防災フォーラムの開催】 ・自助・共助の取組みの必要性をできるだけ多くの区民が理解できるよう、区役所主催の「防災フォーラム」を開催する。 〔予算額 ー 〕 【1－1－2 家具固定ワークショップの開催】 ・地震災害(特に高層マンションにおける長周期地震動による被害)に対する自助の取組の実践を図るために、家具の配置の見直しや固定等を学ぶワークショップを開催する。 〔予算額 928千円(通年分)〕 【1－1－3 収容避難所開設・運営訓練等の実施】 ・実際の災害に際し、地域住民が安全に避難するとともに、収容避難所での避難者の受入が的確に行われるよう、振興町会別の避難誘導、安否確認、救出救護及び連合振興町会による収容避難所開設・運営に係る図上訓練及び実地訓練を実施する。 〔予算額 1,080千円(通年分)〕	・防災フォーラムの開催 3中学校下 各1回 参加者数 600名以上 ・家具固定ワークショップの実施(6回) 地域防災リーダーにより実施 3回 マンション管理組合等へ区役所が実施3回 参加者数 180名以上 ・避難所開設・運営訓練の実施 新規実施 2連合振興町会エリア 2回目の実施 大江・聖和・五条の各連合	・防災フォーラムの開催 平成23年度 3中学校下 各1回 参加者数 380名 〔23予算額 ー 〕 ・家具固定ワークショップの実施 平成21年度 3回 平成22年度 7回 平成23年度 6回 〔22決算額 2,008千円〕 〔23予算額 796千円〕 ・避難所開設・運営訓練 平成21年度 1連合(聖和) 平成22年度 2連合(大江・五条) 平成23年度 2連合(天王寺・生魂) 〔22決算額 569千円〕 〔23予算額 818千円〕

・今、何が課題で、その解決によってどのような状態をめざすのか	・課題解決に向け、どういった施策をいかに展開するのか	・戦略の実現に向け、24年度において、主にどのような取組・事業を実施するのか		
経営課題	戦略	具体的取組	業績(アウトプット)目標	前年度までの実績
(共助の取組) ・収容避難所の場所を知っている区民の割合 平成23年度 53.9%(区民モニター)		【1-1-4 避難者への支援の強化】 ・収容避難所等の場所・経路の周知徹底を図る。 〔予算額 ー〕	・町会掲示板等を活用した収容避難所案内図の設置完了 90か所	・町会掲示板等を活用し、収容避難所案内図の設置 平成23年度 五条連合 振興町会内の3振興町内 掲示板 〔23予算額 ー 〕
		【1-1-5 災害時要援護者の避難支援プランの作成】 ・お互い顔が見える振興町会エリア単位での高齢者や障害のある人の見守り体制である「ご近所助け合いネット」の活動が開始されたエリアで、災害時における要援護者の避難支援プランの作成を進める。 〔予算額 ー 〕	・「ご近所助け合いネット」の活動支援 大江連合2町会 五条連合1町会 での、避難支援プラン作成数の増(合計10名) ・「ご近所助け合いネット」新規構築支援 大江連合、五条連合 各1町会 大江・五条連合以外の連合 1町会 において避難支援プラン作成を進める	平成22年度 ・大江連合振興町会の2振興町会エリアで避難支援プランの作成 平成23年度 ・上記2振興町会エリアでの対象者増(現在9名) 五条連合振興町会での【ご近所助け合いネット】活動の開始 〔22決算額 ー 〕 〔23予算額 ー 〕
		【1-1-6 安心安全カードの普及促進】 ・安心安全カードを区民にさらに浸透させるために、新たに町会長、災害救助青年部、区社協役員、マンション管理組合役員等にも普及者向けマニュアルを配布し、地域でのきめ細かな普及活動を進める。 〔予算額 284千円(通年分)〕	・普及者数 500名以上 ・安心安全カード配布数 10,000枚	・普及者向けマニュアル作成 平成23年度 500部 ・安心安全カード配布件数 平成22年度 10,000枚 平成23年度 7,000枚 〔22決算額 507千円〕 〔23予算額 378千円〕
		本格予算に向け、以下の取組を検討する ・収容避難所の収容人員が不足している地域において、収容避難所の新たな指定及び備蓄物資の配置		・一時・収容避難所としての協力要請 平成23年度 5校以上 ※予定
		【1-2-1 パトロール活動等の支援】 ・区民や地域活動団体による青色防犯パトロールや夜間パトロール、落書き消去活動を支援する。 〔予算額 463千円(4～7月)〕※防犯パトロール経費 〔予算額 239千円(通年分)〕※落書き消去経費	・青色防犯パトロールの支援 2グループ ・夜間パトロールの支援 4グループ ・落書き消去活動の支援 1グループ	平成23年度 ・青色防犯パトロールの支援:2団体に交付金を交付 〔23予算額 1,125千円〕
・区内では、ひったくり、路上強盗や子ども被害などが継続的に発生しており、区民の安全・防犯意識の高揚を図り犯罪の無いまちを目指す継続的な取組が必要である。 ・区内の街頭犯罪の発生状況は人口に比して高い割合にあることから、発生件数が多い自転車盗、車上ねらい、部品ねらいについては継続的な対策が必要である。 【市民局「大阪市の犯罪発生状況」より】 ＊平成23年中暫定値/天王寺区における人口1,000人当たりの発生件数(区人口は12月1日推定値) ひったくり 0.5件(24区中3番目) 路上強盗 0.04件(24区中8番目) 自転車盗 5.8件(24区中6番目) 車上ねらい 2.9件(24区中3番目) 部品ねらい 1.0件(24区中11番目)	【1-2 区内の発生状況に応じた効果的な防犯対策の推進】 ・地域の安全や防犯に関する区民の理解を深めるための区主催のフォーラム等の取組を進める。 ・安全や防犯に関する情報の共有化を図り、地域住民が行う夜間パトロールや見守り活動等の活性化を支援する。 《どのような成果(アウトカム)をめざすのか》 ・安全・防犯意識が高まったという人の割合の増(目標値や達成年度については、平成23年度区民モニター結果を踏まえて4月までに設定) ・青色防犯パトロール、夜間パトロールの増(地域住民の自主的な協力が必要であり、目標数値化は困難なため) ・街頭犯罪発生件数 平成23年比▲30%(26年)			

・今、何が課題で、その解決によってどのような状態をめざすのか		・課題解決に向け、どういった施策をいかに展開するのか		・戦略の実現に向け、24年度において、主にどのような取組・事業を実施するのか	
経営課題	戦略	具体的取組	業績(アウトプット)目標	前年度までの実績	
【天王寺区内の子どもに対する声かけ事案発生状況】 平成21年度 16件 平成22年度 17件 【天王寺区における地域防犯対策の取組】 ・青色防犯パトロール 2団体 ・定期的な夜間パトロール 3団体 ・見守り隊活動 9連合で実施（平成23年11月現在） 【区民モニター調査結果】 ・防犯意識の高まった人の割合（平成23年度）162名/295名（54.9%） 【天王寺区内の街頭犯罪発生状況】 ・平成23年中 801件 （前年比 ー300件、-27.2%、市全体-13.0%） 【全市目標】大阪市街頭犯罪発生件数 平成24年度目標22,500件（23年比▲10%）		【1-2-2 街頭犯罪対策】 ・警察等と連携した啓発活動の実施 ・被害状況の分析を基に、自転車の二重錠の効用を効果的にPRする。 〔予算額 702千円（通年分）〕	・警察等と連携した区内各種イベントにおける啓発活動 年4回以上 ・警察や防犯協会との協働により街頭やイベント等において「二つ目のカギ」取付けキャンペーンを実施 年25回 2,500台に取付	【街頭犯罪の啓発】 平成22年度 看板の設置20枚 ポスター等の掲示200枚 イベント等での啓発26回 平成23年度 ポスター等の掲示 700枚（予定） イベント等での啓発 34回（予定）（ひったくり等啓発3回含む） 【二つ目のカギ取付けキャンペーン】 平成22年度 18回、1,099個 平成23年度 27回（予定）、1,954個配布 〔22決算額 ー 〕 〔23予算額 1,909千円〕	
		本格予算に向け、以下の取組を検討する ・ひったくり・路上強盗や子ども被害等の地域安全や防犯に関する機運を全区的に盛り上げるため、区役所主催の「防犯フォーラム（仮称）」を開催 ・連合振興町会エリア単位で、ひったくりや声かけ事案の発生場所、危険箇所等の情報を盛り込んだ「地域安全マップ」の作成・配布		平成22年度 ・子どもの安全に関する出前講座：5回 高齢者交通安全講座：8回 平成23年度 ・子どもの安全に関する出前講座：3回 高齢者交通安全講座：4回 ひったくり等啓発：3回 〔22決算額 ー 〕 〔23予算額 ー 〕 平成22年度 ・2連合振興町会（五条連合、桃陽連合）エリアで作成着手 平成23年度 ・地域活動協議会を準備する地域での提案・協議 〔22決算額 ー 〕 〔23予算額 ー 〕	

・今、何が課題で、その解決によってどのような状態をめざすのか	・課題解決に向け、どういった施策をいかに展開するのか	・戦略の実現に向け、24年度において、主にどのような取組・事業を実施するのか
--------------------------------	----------------------------	--

経営課題	戦略	具体的取組	業績(アウトプット)目標	前年度までの実績
・いわゆる「迷惑駐輪」を減らすために自転車の放置禁止区域の指定や駐輪場の整備が進められているが、駅周辺などの放置自転車は依然として多く、安全な歩行の妨げになっている。 ・自転車の利用におけるマナーの向上と交通法規の遵守について継続的な啓発活動が行われているが、危険な運転による周囲への影響や問題を意識することなく安易に自転車を利用している人が依然として多い。 ・自転車利用にかかる啓発活動の一層の強化が求められている。 【天王寺区内の鉄道駅周辺の放置自転車台数】 平成21年2月→平成22年2月 合計 3,224台→1,279台(60%減) 平成22年2月→平成23年2月 合計 1,279台→ 486台(62%減) 【天王寺区内の自転車関連事故件数】 平成23年 206件(天王寺区 12月末現在概数) 対前年比▲52件 ----- 【全市目標】放置自転車台数全国ワースト1の返上	【1－3 自転車利用についてのルール遵守意識の徹底】 ・「迷惑駐輪の無いまち」をめざし、区民との協働による継続的な啓発活動を行う。 ・自転車の運転や利用にかかるルール遵守の徹底を図るため、実地指導を含む講習会等を継続的に実施する。 《どのような成果(アウトカム)をめざすのか》 ・区内の鉄道駅周辺の放置自転車台数 今後5年間でゼロへ(28年度) ・自転車関連事故件数 平成23年(206件)の半減(26年)	【1－3－1 迷惑駐輪防止の啓発と環境づくり】市民協働型自転車適正化事業「DO！プラン」 ・区民との協働により、鉄道駅周辺で迷惑駐輪の防止に向けた啓発活動を行う。 〔予算額 6,962千円(通年分)〕 <		

・今、何が課題で、その解決によってどのような状態をめざすのか	・課題解決に向け、どういった施策をいかに展開するのか	・戦略の実現に向け、24年度において、主にどのような取組・事業を実施するのか		
経営課題	戦略	具体的取組	業績(アウトプット)目標	前年度までの実績
・現在、単身世帯の増加と地域における人と人とのつながりの希薄化等が高齢者のひきこもりや虐待の増加をもたらしていると考えられることから、高齢者が住み慣れた地域で安心し安全に暮らすことができるようにしていくことが求められている。		【1－4－2 子育てナビゲーション】 ・子育てに関する様々なサービスや情報を分かりやすく案内する「子育てナビゲーション」シートを作成する。 ・子育て世代一人ひとりに顔の見える身近な相談相手として、シートを活用して子育てに関するサービス等のコーディネートを行う。	・「子育てナビゲーション」シートの配布及びナビゲーションの開始 配布件数 300枚	平成23年度 ・「子育てナビゲーション」シートの作成に向けた検討 〔23予算額 ー 〕
		本格予算に向け、以下の取組を検討する ・働きながら子どもを育てる世帯向けの講演会の実施		
		【1－5 高齢者のひきこもりや虐待の防止】 ・高齢者の引きこもりや虐待防止を図るため高齢者の相互交流や地域住民との交流を促進し、地域における日頃からの見守りや支援等の活動を活性化する。	・参加者数1,000名以上 アンケート回答者のうち、50歳未満の参加者の割合の増	平成22年度 ・参加者数 820名 （アンケート回答者のうち50歳未満の参加者の割合36.7%） 平成23年度 ・参加者数 836名 （アンケート回答者のうち50歳未満の参加者の割合47%） 〔22決算額 428千円〕 〔23予算額 427千円〕
		【天王寺区の世帯数および1世帯当たり人員】 平成17年 30,965世帯 2.06人/世帯 平成22年 34,730世帯 1.98人/世帯 世帯数は増加しているが、世帯当たり人員は減少している 【愛あいふれあいまつりでのアンケート】 65歳以上の方で、地域の食事サービスやふれあい喫茶、地域の行事に参加したことの無い人の割合 14人/40人(35%)	【安心安全カードの普及促進】＊1－1－6の再掲 ・安心安全カードを区民にさらに浸透させるために、新たに町会長、災害救助青年部、区社協役員、マンション管理組合役員等にも普及者向けマニュアルを配布し、地域でのきめ細かな普及活動を進める。	・普及者数 500名以上 ・安心安全カード配布数 10,000枚
【天王寺区における65歳以上の人口の割合】 平成17年 11,387人/64,137人(17.8%) 平成22年 12,680人/69,775人(18.2%) 人口、65歳以上人口ともに増加している。 (国勢調査より)	【1－5 高齢者のひきこもりや虐待の防止】 ・高齢者の引きこもりや虐待防止を図るため高齢者の相互交流や地域住民との交流を促進し、地域における日頃からの見守りや支援等の活動を活性化する。	【1－5－1 愛あいふれあいまつりの開催】 ・高齢者、障害のある人等の相互交流・相談、地域住民とのふれあいや交流の機会及び福祉関係情報の提供を行う「天王寺愛あいふれあいまつり」を開催する。	・参加者数1,000名以上 アンケート回答者のうち、50歳未満の参加者の割合の増	平成22年度 ・参加者数 820名 （アンケート回答者のうち50歳未満の参加者の割合36.7%） 平成23年度 ・参加者数 836名 （アンケート回答者のうち50歳未満の参加者の割合47%） 〔22決算額 428千円〕 〔23予算額 427千円〕
	「ご近所の助け合いネット」が見守る高齢者や障害のある人の数の前年比増 (地域住民の自主的な協力が必要であり、目標数値化は困難なため)	【安心安全カードの普及促進】＊1－1－6の再掲 ・安心安全カードを区民にさらに浸透させるために、新たに町会長、災害救助青年部、区社協役員、マンション管理組合役員等にも普及者向けマニュアルを配布し、地域でのきめ細かな普及活動を進める。	・普及者数 500名以上 ・安心安全カード配布数 10,000枚	・普及者向けマニュアル作成 平成23年度 500部 ・安心安全カード配布件数 平成22年度 10,000枚 平成23年度 7,000枚 〔22決算額 507千円〕 〔23予算額 378千円〕
		【1－5－2 ご近所の助け合いネットの構築の促進】 ・お互いの顔が見える振興町会エリア単位での高齢者や障害のある人の見守り体制である「ご近所の助け合いネット」の構築を支援する。	・「ご近所の助け合いネット」の活動支援 大江連合 2町会 五条連合 1町会 ・「ご近所の助け合いネット」の新規構築支援 大江連合、五条連合で1町会ずつ 大江連合、五条連合以外の連合振興町会 1町会	平成22年度、平成23年度 ・「ご近所助け合いネット」の活動支援 大江連合 2町会 平成23年度 ・「ご近所の助け合いネット」の新規構築支援 五条連合 1町会 〔22決算額 507千円〕 〔23予算額 173千円〕

・今、何が課題で、その解決によってどのような状態をめざすのか			・課題解決に向け、どういった施策をいかに展開するのか			・戦略の実現に向け、24年度において、主にどのような取組・事業を実施するのか		
経営課題			戦略			具体的取組		
【2 快適でいきいきと暮らせるまちづくり】 ・区民が、身近なところで花や緑に接したり文化活動等の機会を得ることにより、人と人がふれあい、心豊かで生きがいを感じることが出来る環境づくりが求められている。 【天王寺区内の市営公園】 26か所 415,529㎡ (内訳:街区公園 22か所、近隣公園 1か所、地区公園 2か所、動植物公園 1か所) 【「学習と活動が循環する生涯学習社会づくり」をすすめるために、大阪市が重点的に推進しなければならないこと(平成23年1月市政モニター)】 ・趣味や一般教養など学習機会の提供 51.2% ・生涯学習に関する情報提供・学習相談の充実 40.9% ・子どもの「生きる力」をはぐくむ学校教育の充実 37.4% 【天王寺区生涯学習講座の参加者数】 平成21年度 参加者数 8,846人 平成22年度 参加者数 9,343人 【区民モニター調査結果】 ・生涯学習を行ったことのある人の割合(平成23年度) 253名/300名(84.3%) (参考)大阪市 市政モニター(平成22年度)83.1% ・死亡原因の上位を占める生活習慣病を予防し、区民の健康寿命(※)を延ばすことが求められている。 ※健康で自立して暮らすことができる期間 (大阪市の健康寿命の試算) 男性73.54年、女性77.40年 (大阪市健康増進計画「すこやか大阪21」(後期計画)より) 【生活習慣病にかかる死亡原因】 (天王寺区 平成22年) 1位 悪性新生物 33.8% (171人) 2位 心疾患 12.5% (70人) 3位 肺炎 11.5% (58人) 4位 脳血管疾患 8.3% (42人) 【大阪市民40～64歳死亡率全国比】 男性1.35倍 女性1.12倍 【区民モニター調査結果】 健康診断受診率(平成22年度) 53.8% 健康づくりで運動を行っている人の割合(平成22年度) 21.6%			【2－1 心豊かで生きがいを感じられる環境づくり】 ・区民が身近なところで緑に接し、語らい、憩える場所を、公園などに創出する。 ・区民が身近なところで文化活動ができるよう、講習・講座等の学習機会を提供する。 《どのような成果(アウトカム)をめざすのか》 ・区民が身近に緑に接し憩える場所の創出 平成27年度までに9か所 ・自己実現や生きがいづくりに向けた自主的な学習や文化活動を行ったことのある区民の割合の増加 (目標値や達成年度については、平成23年度区民モニター結果を踏まえて4月までに設定)			【2－1－1 憩いの場「グリーンすぽっと」(仮称)の創出】 ・区民のふれあいやコミュニケーションが広がるよう、公園などの公共スペースに、区民により緑を増やし、区民が立ち寄り、語らい、憩える場所を創出する。 〔予算額 ー 〕		
						業績(アウトプット)目標		
						前年度までの実績		
						平成23年度 ・公園事務所や住民の協力を得て、「グリーンすぽっと」(仮称)を創出するための現地調査 1回 5か所(区内公園など) 実施 〔23予算額 ー 〕		
						【2－1－2 区民の自主的な学習や文化活動の支援】 ・区内各施設、生涯学習ルームと連携して、自主的な学習や文化活動の機会を提供する。 ・区民の自主的な学習や文化活動に関する情報を収集し、様々な手法で広く区民に提供する。 〔予算額 1,583千円(通年分)〕		
						・生涯学習講座への参加者数 9,500人以上 ・区ホームページによる情報提供 年15回以上 ・携帯電話へのメールマガジンによる情報提供 年6回以上 ・区広報紙への「区生涯学習ルーム一覧表」(保存版)の掲載 年1回 ・生涯学習講座への参加者数 平成22年度 9,343人 平成23年度 3,027人(8月末時点) ・区ホームページによる情報提供 平成22年度 年15回 平成23年度 年16回(予定) ・携帯電話へのメールマガジンによる情報提供 平成22年度 年2回 平成23年度 年2回(予定) ・区広報紙による情報提供 平成23年度 年3回(うち、「区生涯学習ルーム一覧表」(保存版)の掲載 年1回) 〔22決算額 1,139千円〕 〔23予算額 1,598千円〕		
			【2－2 区民による健康づくりの促進】 ・区民が自らの身体状況をよく知り、健康づくりの意識の高揚につながる健康診断等の受診状況を向上させる。 ・区民の健康づくりに関する事業を区民との協働で実施することなどにより、区民の自主的な健康づくりを支援する。 《どのような成果(アウトカム)をめざすのか》 健康診断受診率の向上 平成25年度 60% 健康づくりで運動を行っている人の割合の増 平成25年度 25%			【2－2－1 健康診断の受診勧奨】 ・様々な情報媒体を活用し、継続的に受診勧奨を行う。 〔予算額 ー 〕		
						・健診受診の有用性と生活習慣病が招く疾病の危険性を区ホームページに掲載4回 ・生活習慣病に気をつけるべき中壮年層への啓発活動 6回 ・携帯電話へのメールマガジンによる受診勧奨 4回 平成23年度 ・ホームページへの掲載 6回(予定) ・携帯電話へのメールマガジンによる受診勧奨 3回(予定) 〔23予算額 ー 〕		
						【2－2－2 がん検診の受診勧奨】 ・がん検診受診率の向上を図るため、性別に応じた効果的・重点的な受診勧奨を行う。 〔予算額 ー 〕		
						・中壮年層への啓発活動 50回 ・妊婦面接や乳幼児健診時に個別受診勧奨の実施 平成23年度 ・地域健康教育の実施 13回(予定) 〔23予算額 ー 〕		

・今、何が課題で、その解決によってどのような状態をめざすのか	・課題解決に向け、どういった施策をいかに展開するのか	・戦略の実現に向け、24年度において、主にどのような取組・事業を実施するのか		
--------------------------------	----------------------------	--	--	--

経営課題	戦略	具体的取組	業績(アウトプット)目標	前年度までの実績
【大阪市がん予防推進条例とがん検診受診率目標】 平成23年10月条例施行　がん検診受診率 平成26年50% ・地域における人々のつながりや、子どもへの関心が希薄化しており、また、子どもの体験活動への参加機会の減少、子ども同士で遊ぶ機会が限られている状況にあることから、次世代を担う子どもや青少年が、様々な体験、世代を越えた交流の機会や地域でのつながりづくりなどを通じて、心身ともに健やかに成長できるような環境をつくる。 【天王寺区の刑法犯少年検挙・補導件数及び人員】 平成22年　57件、68人 【青少年の育成に関する地域・社会の役割について(大阪市世論調査2007)】 地域全体で子どもを育て・守る雰囲気やしぐみを生み出す「地域の教育力」は、自身の子ども時代と比べて ・以前より低下している　43.9% ・わからない　30.1% ・以前と変わらない　15.0% ・以前より向上している　6.7% 子どもの育成支援について、 ・家庭・地域、学校、企業、行政が連携してそれぞれの役割を担いながら社会全体で取り組むべきだ　90.5% ・子育てしやすい職場環境の整備など、企業が果たすべき役割が重要である　85.1% ・地域住民が地域の子どもに関心を高め、地域住民の自覚を向上する必要がある　84.9% 【天王寺区内の子供会の活動状況の推移】 平成16年度 単位子供会数　33 会員数　子ども522人 指導者・育成者283人 平成23年度(11月現在) 単位子供会数　33 会員数　子ども396人 指導者・育成者200人	【2－3　子ども・青少年の体験活動や交流の推進】 ・家庭・学校・地域が連携して子ども・青少年を見守り、育てる取組を進める。 ・子ども・青少年が地域社会の一員としての自覚を持ち社会に貢献するボランティア精神を培うことができるよう、施設体験や高齢者・障害者との交流活動を支援する。 ・年齢の異なる子ども同士のふれあいを促進するとともに地域への愛着をはぐくむことができるよう、子供会活動を支援する。 《どのような成果(アウトカム)をめざすのか》 ・刑法犯少年検挙・補導件数及び人員の対前年比減 (目標達成年度を定めた数値化よりも毎年度減少をしている状態を成果とする方が望ましいため) ・天王寺区ジュニアクラブ会員のうち年間1回以上活動に参加する会員を300人以上確保(平成27年度) ・子供会会員数を毎年450人以上確保	本格予算に向け、以下の取組を検討する ・中壮年層の区民を対象とした健康ウォーキング事業の実施 【2－3－1「こどもの環境ととのえ隊」活動の支援】 ・青少年の健全育成、非行防止を目的として、各団体が連携して行う「こどもの環境ととのえ隊」活動を支援する。 〔予算額120千円(通年分)〕 【2－3－2　天王寺区ジュニアクラブの活動の支援】 ・学校・家庭・地域との協働により、小学校4年生から中学・高校生を対象に、地域行事へのボランティア参加や施設体験などを行う天王寺区ジュニアクラブの活動を支援する。 〔予算額332千円(通年分)〕 【2－3－3　子供会活動の支援】 ・子供会の活動状況の情報を発信する。 ・子供会の活動に関する提案を行う。 〔予算額　－　〕	・「子どもの環境ととのえ隊」活動 区全体レベルの活動　年2回以上 地区レベルの活動　　年2回以上 ・ボランティア等の活動　年5回 ・会員数　新規登録　30人以上 ・年間1回以上活動に参加した会員数70人以上 ・区広報紙による情報提供・区ホームページ・携帯電話へのメールマガジンによる情報提供　年4回以上 ・活動にかかる提案　1回以上	平成23年度 ・天王寺地域　7月3日実施　44人参加 ・ぷちウォーキング　10月1日実施　31人参加 〔23予算額　－　〕 平成22年度 ・区レベルの活動　2回 平成23年度 ・区レベルの活動　3回(予定) ・地区レベルの活動　1回(予定) 〔22決算額　－　〕 〔23予算額　60千円〕 平成22年度 ・活動回数　年6回 ・新規会員数　47人 ・年間1回以上活動に参加した会員数70人 平成23年度 ・活動回数　年5回(予定) ・新規会員数　27人(H23.12.1現在) ・年間1回以上活動に参加した会員数54人(H23.12.1現在) 〔22決算額　149千円〕 〔23予算額　306千円〕 平成22年度 ・区広報紙による情報提供　年2回 ・区ホームページによる情報提供　年5回 平成23年度 ・区広報紙による情報提供　年1回(予定) ・区ホームページによる情報提供　年7回(予定) ・携帯電話へのメールマガジンによる情報提供　2回(予定) 〔22決算額　－　〕 〔23予算額　－　〕

・今、何が課題で、その解決によってどのような状態をめざすのか	・課題解決に向け、どういった施策をいかに展開するのか	・戦略の実現に向け、24年度において、主にどのような取組・事業を実施するのか
--------------------------------	----------------------------	--

経営課題	戦略	具体的取組	業績(アウトプット)目標	前年度までの実績
・いじめ、児童虐待やDV(ドメスティックバイオレンス)などの人権侵害事案や男女協働参画にかかる課題事案は継続的に発生しており、人権尊重・男女共同参画社会に向け、一人ひとりの人権が尊重され、男女がともに輝く豊かで活力ある社会の実現をめざす。 【人権相談件数】 大阪市 天王寺区 平成19年度 428件 15件 平成20年度 244件 8件 平成21年度 250件 2件 平成22年度 4,708件 3件 ※H22市:人権啓発・相談C設立により大幅増 【DV相談件数】 大阪市 平成19年度 898件 平成20年度 911件 平成21年度 1,064件 平成22年度 1,271件 【区民モニター調査結果】 ・人権意識が高まったと回答した人の割合(平成23年度) 105名/300名(35.0%) (参考)大阪市市政モニター(平成19年度)32.8% ・男女平等であると回答した人の割合(平成23年度) 57名/300名(19.0%) (参考)大阪府 男女共同参画にかかる府民意識調査(平成21年度) 19.6% ・障害のある人の社会参加を推進していくため、障害のある人の自立のための相談や支援機能を強化するとともに、障害のある人のひきこもりや孤立化の防止に向けて地域住民とのふれあいや交流を促進し、障害のある人に対する住民の理解をより一層深めていくことが求められている。 【天王寺区 障害者手帳所持者数】 平成19年度 2,869人 平成20年度 3,116人 平成21年度 3,219人 平成22年度 3,341人 【大阪市内の委託相談支援事業所】 37箇所(平成22年) (天王寺区内は無し) 【愛あいふれあいまつりにおけるアンケート】 ・まつりを通して障害について知った人の割合 42人/198人(21.2%)	【2－4 人権意識、男女共同参画意識の高揚】 ・人権意識、男女共同参画意識の高揚を図るため、様々な啓発活動を行う。 《どのような成果(アウトカム)をめざすのか》 ・人権意識の高まった区民の割合の増 ・男女共同参画意識の理解が深まった区民の割合の増 (目標値や達成年度については、平成23年度区民モニター結果を踏まえて4月までに設定) 【2－5 障害のある人に対する支援の充実】 ・障害のある人が自立した生活が送れるように、支援機関に関する情報発信や区役所の相談支援機能を充実させる。 ・障害のある人の社会参加についての地域住民の理解を深めるために、地域住民と障害のある人とのふれあいや交流の場を設ける。 《どのような成果(アウトカム)をめざすのか》 ・障害のある人に対する個別相談(イベント開催時の相談コーナーでの個別相談、区役所での地域自立支援協議会開催時の個別相談)の認知度の増 (H24年度アンケート調査等により検証) ・障害のある人の社会参加について理解を持つ住民の増 (H24年度アンケート調査等により検証)	【2－4－1 人権意識、男女共同参画意識の高揚に向けた啓発活動】 ・区主催イベントや各種団体の行事において、人権意識の高揚に向けた啓発活動を実施する。 ・「男女共同参画社会の実現」をテーマにした講演会の開催などの支援をする。 〔予算額1,912千円(通年分)〕	・区民まつりや各種団体の行事のちらしやプログラムなどへの人権啓発標語の掲載 年15回以上 ・講演会の開催 人権意識の啓発 年1回以上 参加者数合計 200名以上 男女共同参画意識の啓発 年1回以上 参加者数合計 200名以上	平成22年度 ・標語の掲載 年12回 ・講演会の開催 人権意識の啓発 年3回、参加者数合計 338名 男女共同参画意識の啓発 2回、参加者数合計 181名 平成23年度 ・標語の掲載 年18回(予定) ・講演会の開催 人権意識の啓発 年3回(予定)、参加者数 60名(1回の実績) 男女共同参画意識の啓発 1回(予定) 〔22決算額 1,508千円〕 〔23予算額 2,662千円〕
		【2－5－1 障害のある人に対する相談支援】 ・障害のある人が身近なところで相談を受けることができるよう、イベント開催時に相談コーナーを設けるとともに、区役所での相談を実施する。 ・福祉サービスを提供する事業所の案内などの福祉サービスに関する情報を収集し、相談支援機関等に提供する。 〔予算額 ー 〕 【愛あいふれあいまつりの開催】＊1－5－1の再掲 ・高齢者、障害のある人等の相互交流・相談、地域住民とのふれあいや交流の機会及び福祉関係情報の提供を行う「天王寺愛あいふれあいまつり」を開催する。 〔予算額 370千円(通年分)〕	・イベント開催時の相談コーナーの開設 年1回以上 ・区役所での相談の実施 年1回以上 ・相談支援機関等に対する情報の提供 年2回以上	平成23年度 ・イベント開催時の相談コーナーの開設 年1回 ・区役所での相談の実施 年1回 ・相談支援機関等に対する情報の提供 年2回 〔23予算額 ー 〕
		【2－5－2 ふれあいスポーツとして「ボッチャ」の普及】 ・地域の中で、世代間交流や障害のある人とのふれあいの輪を広げるために、あらゆる世代が誰でも簡単に楽しめるスポーツとして「ボッチャ」を普及させる。 〔予算額143千円(通年分)〕	・地域が主体的に実施するボッチャ競技の支援 年3回以上 ・区民ボッチャ大会の開催 年1回	平成23年度 ・地域福祉アクションプラン推進委員会・総合型地域スポーツクラブ等によるボッチャ競技の紹介・周知 3回(予定) 〔23予算額339千円〕

・今、何が課題で、その解決によってどのような状態をめざすのか	・課題解決に向け、どういった施策をいかに展開するのか	・戦略の実現に向け、24年度において、主にどのような取組・事業を実施するのか
--------------------------------	----------------------------	--

経営課題	戦略	具体的取組	業績(アウトプット)目標	前年度までの実績
【3 歴史や文化を活かしたにぎわいと活力のあるまちづくり】 ・地域主体のまちづくりを進めるためには、区民が自分たちのまちの歴史や文化を知り、地域への愛着心や誇りを高める必要がある。 ・区内には四天王寺や美術館、動物園をはじめ多くの歴史的・文化的な資産が存在し、さまざまな伝統行事やイベント等が開催されているが、これらの情報を、区民に対しても効果的に発信できているとは言えない。 ・区を訪れる人やターミナル駅周辺に集まってくる人の流れを活用したにぎわいのあるまちづくりへ向けて、区の歴史的・文化的な資産等の情報をより一層効果的に発信していく必要がある。 【動物園・美術館の年間入場者数】 (平成22年度) 天王寺動物園 約120万人 大阪市立美術館 約46万人 【区内主要駅の1日平均乗客数】 (平成21年度) 天王寺(JR・地下鉄)・阿部野橋(近鉄) 約35万1千人、鶴橋(JR・近鉄・地下鉄) 約19万2千人、大阪上本町(近鉄)・谷町九丁目(地下鉄) 約7万1千人 (H22年 大阪市統計書より) ・空き店舗の増などにより商店街のにぎわいが失われつつあり、区民の地域への愛着を高めるために、地域のにぎわいづくりにつながるような商店街の活性化方策を支援する必要がある。	【3－1 天王寺の魅力の情報発信と集客イベントの促進】 ・天王寺動物園開園100年、大坂の陣400年にあたる平成27年を中心に、区内の魅力ある歴史的・文化的な資産を活かしたイベントを戦略的・継続的に実施する。 《どのような成果(アウトカム)をめざすのか》 ・区内の歴史的・文化的な資産の認知度の増(H24年度アンケート調査により検証) ・観光客など区来訪者の増(目標達成年度を定めた数値化よりも毎年度増加をしている状態を成果とする方が望ましいため) 【3－2 商店街の活性化】 ・区商店会連盟等と連携し、区内の商店街の活性化に向けた商店会の取組を支援する。 《どのような成果(アウトカム)をめざすのか》 ・商店街の空き店舗数の減少(24年度調査により検証) 【4－1 地域住民同士の交流の促進】 ・地域コミュニティの復興に向け、地域住民同士の交流を促進するために地域の取組の情報を積極的に発信する。 ・防災・防犯の課題を糸口に、いわゆる新住民に地域におけるつながり、助け合いの大切さを訴え、地域への関心を高める。	本格予算に向け、以下の取組を検討する ・天王寺動物園開園100年、大坂の陣400年にあたる平成27年度までのイベント企画の実施 ・平成23年度に作成した「上町台地周遊マップ」を活用した天王寺動物園や隣接区とも共催のイベントの実施 【3－2－1 店舗誘致などに向けた商店街活性化方策の支援】 ・集客力のある店舗の誘致など商店街の活性化方策について、大阪商工会議所天王寺・阿倍野支部等と連携して、各商店会と協議を進める。 ・経済局の地域経済活性化支援事業を活用して、空き店舗などを活用した、商店街が行う活性化事業を支援する。 〔予算額 ー 〕 【4－1－1 地域活動団体の各種活動への参加呼びかけ】 ・地域振興会をはじめ各種団体と連携し、地域活動に参加していない住民や区外からの転入者に対し、活動への参加の呼びかけを行う。 ・区ホームページにおいて、連合振興町会エリアごとの総合的な情報発信を行う。 〔予算額 ー 〕	平成23年度 【民間事業者との連携による、魅力の情報発信】9回 【ストリートパフォーマーの登録】登録開始 〔23予算額 ー 〕 平成23年度 【マップ】2月完成予定。 【天王寺動物園や民間、隣接区と共催イベント】 12月開催。 〔23予算額 907千円〕 平成22年度 商店街の活性化方策について区商店会連盟と検討会を実施 3回 平成23年度 経済局の地域経済活性化支援事業を活用した、商店街が行う活性化事業を支援 2回 (うえほんバル、玉造日の出通り南商店街ふれあい祭り) 〔23予算額 83千円〕 平成21年度～23年度 ・区外からの転入者に対する地域活動団体の活動紹介のリーフレットの配布 ・区広報紙による情報発信 平成21年度 2回、平成22年度 2回 平成23年度 10回 〔22決算額 ー 〕 〔23予算額 ー 〕	

・今、何が課題で、その解決によってどのような状態をめざすのか			・課題解決に向け、どういった施策をいかに展開するのか			・戦略の実現に向け、24年度において、主にどのような取組・事業を実施するのか		
経営課題			戦略			具体的取組		
・地域活動団体は活発に活動しているが、町会の加入率の低下、特定の役員等への行政協力依頼の集中、役員の高齢化や後継者・新たな担い手不足などにより、地域課題解決に取り組む地域の活動力の低下が懸念されている。 ・以上の状況にあることから、地域コミュニティの復興に向け、より多くの地域住民が地域に関心を持ち、地域課題の解決に向けて協働して活動する地域住民の取組を積極的に支援していくことが求められている。			《どのような成果(アウトカム)をめざすのか》 ・地域活動団体の活動に新たに参画した人の増(目標数値化には、団体の協力が必要なため困難) ・町会の加入率の向上 (目標数値化には、団体の協力が必要なため困難)			【4－1－2 災害時の共助のためのつながり合いの大切さの意識喚起】 ・マンション居住者を中心に、災害発生時における助け合い(共助)や高齢者の見守り、子育て支援のための日常からのつながり合いの重要性を理解してもらうための説明会を開催する。 〔予算額 ー 〕		
			【4－2 連合振興町会エリア単位での課題の共有と解決へ向けた取組の支援】 ・連合振興町会エリア単位での課題の解決に向けた活動をより一層活性化するため、地域活動協議会の結成と運営を区役所が継続的に支援していく。 《どのような成果(アウトカム)をめざすのか》 ・地域活動協議会としての取組数の対前年比増(具体の成果に結びついたもののみを成果とするのはふさわしくないため)			【4－2－1 地域活動協議会の運営及び活動の支援】 ・地域活動協議会が取り組む防災、防犯等に関わる公共的事業や地域活動への必要な支援を行う。 ・地域活動協議会の新規地域での立ち上げを支援する。 〔予算額 ー 〕		
			本格予算に向け、以下の取組を検討する ・地域活動協議会の行う地域活動の新たな担い手づくりを支援する。					
【5 区役所力の強化】 ・区民や地域活動団体による地域課題の解決に向けた活動をより一層活性化するため、区役所が相談・支援などのコーディネート機能を強化していくことが求められている。 ・地域事情を踏まえた協働型区政を実現するため、市政・区政に関する様々な意見を区の施策や事務事業により一層反映していくことが求められている。			【5－1 地域担当制の充実】 ・連合振興町会エリアごとに配置した地域担当職員が、それぞれの地域事情に応じて地域住民や地域活動団体の活動を総合的に支援することにより、そのコーディネート力を向上させていく。 《どのような成果(アウトカム)をめざすのか》 ・各連合で地域課題解決に向けた議論や活動が行われ、区役所がコーディネート機能を果たしている状態 (定性的な成果を求める戦略であるため)			【5－1－1 地域別の課題の共有化と解消】 ・地域担当職員が地域活動団体や地域住民と地域課題を共有し、協働して課題解消に向けて取り組む。 〔予算額 ー 〕		
			【5－2 区民の意見を区政に反映させる仕組みの構築】 ・区政運営及び区において実施される本市事務事業に、区民の意見・評価を反映する仕組みをつくる。 《どのような成果(アウトカム)をめざすのか》 ・区政運営及び区において実施される本市事務事業に対する区民の意見・提案の反映 (意見・提案が未定であるため目標値を設定できない)			【5－2－1 区政会議の開催と意見・評価の反映】 ・区政会議における意見・評価を、区運営方針及び区において実施される本市事務事業に反映させる。 〔予算額 933千円(通年分)〕		
						業績(アウトプット)目標		
						前年度までの実績		
						平成23年度 ・振興町会未加入マンションの管理組合等への防災課題や高齢者の見守り、子育て支援等の説明会の開催 年9回 〔23予算額 ー 〕		
						平成22年度 地域活動協議会形成に向けての準備 平成23年度 地域活動協議会の設置 3地域(大江・聖和・五条) ・聖和地区「寄り合いまちづくり」の取組経過 防災ふえすたの開催(7月) 清掃活動(毎月) 〔23予算額 900 千円〕		
						平成22年度 区独自の地域担当職員配置 ・各地域の団体役員会等への出席 ・情報の収集と集約 平成23年度 * 新市政改革方針により全区で配置 ・各地域の団体役員会等への出席 ・地域担当記録簿(相談、支援)の作成 ・地域活動協議会の設立支援等 〔22決算額 ー 〕 〔23予算額 ー 〕		
						平成23年度 区政会議の開催 3回(予定) 区政会議における意見・評価の区運営方針、区において実施される事務事業への反映 〔23予算額 1,084千円 〕		